

昭和55年度宇宙開発委員会
外国技術者招へいについて（案）

昭和56年2月18日
宇宙開発委員会
決 定

昭和55年度における宇宙開発委員会外国技術者招へいとして、インドネシア国立航空宇宙研究所所長の
R. Sunaryo 博士を3月1日～3月11日の間、招へいすることとする。

昭和55年度宇宙開発委員会招へい日程

3月1日(日) 来日

2日(月) 宇宙開発委員会、宇宙開発事業団

3日(火) 東京大学宇宙航空研究所、東京天文台、
経済団体連合会宇宙開発推進会議

4日(水) 航空宇宙技術研究所

5日(木) 地球観測センター、気象衛星センター

6日(金) リモートセンシング技術センター

9日(月)、10日(火) 種子島宇宙センター

11日(水) 離日

スナリヨ博士の略歴

Dr. R. Sunaryo

1925年9月4日生 (55才)

1956年 インドネシア大学医学部卒業

1963年 航空宇宙医学校(米国)卒業

1967~70年 航空宇宙医学研究所(ジャカルタ)所長

1970~73年 空軍研究開発センター(バンドン)所長

1973~78年 国防研究開発センター(ジャカルタ)所長

1978年9月~ 国立航空宇宙研究所所長
(Chairman of LAPAN)

インドネシアの宇宙開発

インドネシアの宇宙開発は、1963年に設立された大統領直属の政府研究所の国立航空宇宙研究所(LAPAN)が一括して行っており、現在までに観測ロケットの打上げ、気象衛星の画像受信(APT)局の建設等を行ってきた。

1976年7月及び1977年3月に国内用の静止通信衛星(パラパ1号及び2号)が米国のロケットにより打ち上げられ、電気通信公社(PERUMTEL; インドネシアの公衆電気通信事業を一元的に行うため、1970年4月に設立)が運用を行っている。

なお、新しい国内用静止通信衛星パラパーB(搭載トランスポンダ数及び各トランスポンダの出力は従来の2倍、設計寿命8年、衛星重量630kg)を、1983年に打ち上げる予定である。